

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

**\*全天カメラ用平面鏡を収蔵**

Φ165、全天カメラ用平面鏡数枚と書かれた段ボール箱（写真1）を発見した。この段ボール箱には他にフォトマル（光電子増倍管）2本、ニコンFモータードライブカメラ（レンズなし）、モータードライブコントローラーらしきものが入っていたが、これらについては稿を改める。

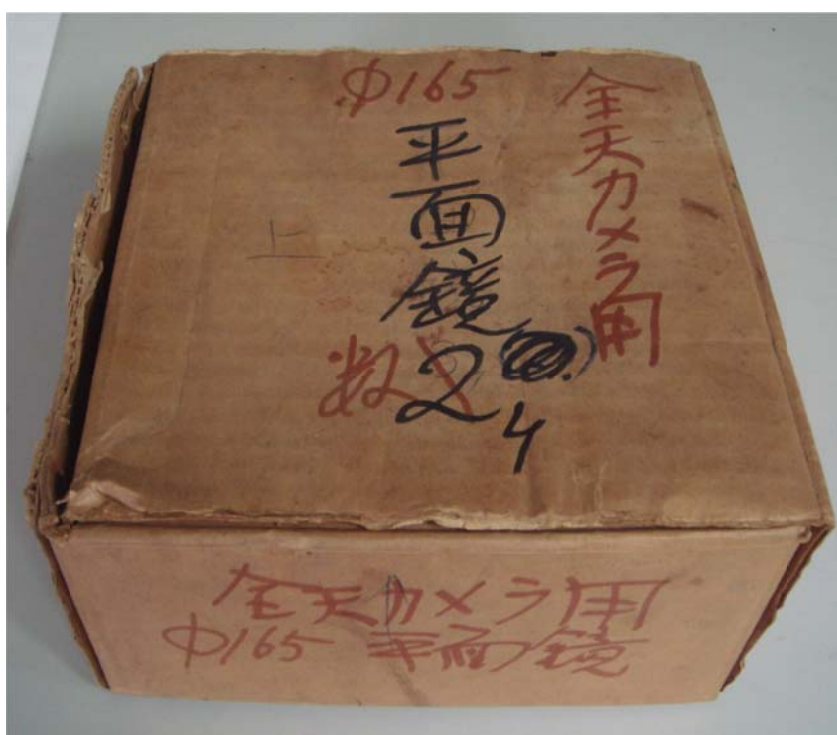


写真1 平面鏡5枚が入っていた箱

写真1の手前の面の反対側には、オーロラ平面鏡と書かれていた（写真2）。

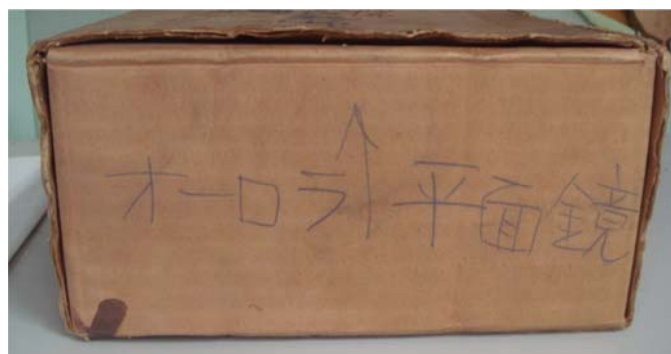


写真2 オーロラ平面鏡の文字

全天カメラは、今では天文台の天候モニター用として設置している天文台も多いが、筆者の知っている古い使用例は流星・火球観測などの自動モニターに使われていたので、これらは東京天文台時代の測光部から引き継いだと思われる。しかし、全天カメラに平面鏡というのはいささか解せないものがある。全天カメラには大きな凸の球面鏡が使われていた。

この箱には、側面に赤い文字で全天カメラ用Φ165平面鏡と書かれているが、中にはΦ200mm、厚さ20mmの平面鏡1枚、Φ165mm、厚さ10mmの平面鏡1枚、Φ160mm、厚さ8mmの平面鏡2枚が入っていた。箱の表に書かれた全天カメラ用Φ165mm平面鏡に相当する鏡は1枚で、他の側面にかかれたオーロラ平面鏡がΦ200mmのものか、Φ160mmのものかさえ不明である。

平面鏡の保存状態はあまりよくはないが実用には耐えそうである。写真3がΦ200mm平面鏡、写真4がΦ165mm、写真5がΦ160mm平面鏡である。



写真3 Φ200mm鏡

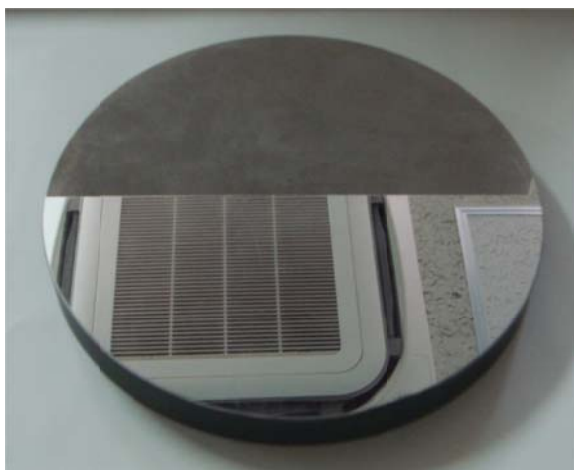


写真4 Φ165mm鏡



写真5 160mm鏡-1



写真6 160mm鏡-2

平面鏡は、実験に何かと便利であるから、ただ収蔵して保管しておくのはもったいな

い。有効利用できるとよいと考えている。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)